

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	建築音響測定法小委員会		主 査 名：宮島 徹 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境運営委員会)		委員長名：久野 覚 主 査 名：田端 淳
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築音響において、幅広く測定方法についての調査・検討を行う。</li> <li>・ 実騒音による遮音性能測定法の検討を行い、標準的な測定方法の策定・提案を行う。</li> <li>・ 前年度までの駆動点インピーダンス測定方法の検討成果をアカスタ的書式にまとめる。</li> <li>・ フランキングに関する内外調査・勉強会を開催し、取組方向を検討する。</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有り		
	宮島 徹(清水技研),古賀貴士(鹿島技研),杉江 聡(小林理研),赤尾伸一(三井住友技開セ),石渡智秋(永田音響設計),稲留康一(奥村組技研),織田慎一(NHK),坂本慎一(東大生研),高橋 央(ベターリビング),平光厚雄(建築研究所),村上剛士(日総試),矢野博夫(千葉工大),山内 崇(戸田建設技研),吉村純一(小林理研),渡辺充敏(大林組技研)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2010 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1.
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. (実騒音法) 現場測定データの分析・検討を居残り予定達成。 2. (インピーダンス) 測定マニュアルを纏めため予定達成。活用法を検討中 3. (フランキング) アンケート調査の方法・内容を検討し予定達成。 4. (遮音性能評価) 音環境規準小委の依頼により、単一指標による遮音性能評価の検討に着手。11 年度大会 OS にて成果を発表予定である。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会発足時の目標に沿って活動を実施しており、特に問題は無い。 2. 3.

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2010 年度 建築音響測定法小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

<b>総合評価</b> (4段階評価)	A
<b>総合評価に関する 自由記述欄</b> (理由、特記事項等)	<p><u>1. フランキングに関する検討</u></p> <p>既存の研究成果等の勉強会を行い、メンバー間の知識の共有を行った。 次年度に実施する予定の実務者へのアンケート調査の準備を行った。</p> <p><u>2. 単一評価指標による遮音性能の表示方法の検討</u></p> <p>2011 年度大会の OS にて発表に向け、主要な負荷騒音スペクトルである道路交通騒音データの収集と、ISO717 の規定 (Annex B スペクトル特性) の妥当性等の検討を行った。</p> <p><u>3. 実騒音法による窓サッシの遮音性能測定方法の検討</u></p> <p>実騒音を音源とした遮音測定方法について、中京地区の超高層集合住宅において測定データ収集を実施した。これまでの活動成果を以下の対外発表を行った。</p> <p>1. 実騒音を用いたサッシの遮音性能測定方法の検討 音の入射角と測定結果の関係 2009 年度大会(東北)</p> <p>1. 現場における遮音性能の簡易測定法の検討(2-2-7), 2009 年度日本騒音制御工学会春期発表会</p> <p><u>4. 板のインピーダンス測定方法の検討</u></p> <p>前身委員会でも実施した諸検討を取りまとめ、測定マニュアルを作成した。活用方法は検討中</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。